

裾野麗峰山の会山行報告書

文・諏訪部豊 写真・後藤、諏訪部

山行番 NO. 1522
日 時 2012. 11. 18 (日) 曇・上部強風
山 域 富士山・宝永山 (御殿場口最高点 = 2770m)
コース 赤塚登山口～鉢巻道～ニッ塚下塚～無名沢～第一火口コル～宝永山2352m峰
～第一火口～宝永山2770m～御殿場口～ニッ塚上塚～鉢巻道～赤塚口
標高差 上り・下り 赤塚登山口約1350m～2770m＝約1420m
参加者 後藤、井上、村山、小松、石和、浜道、勝又陽、諏訪部、庄野＝9名



5:00に農協Pに集合し、Lの車で表富士周遊道に向かう。赤塚口で先着していた東京の庄野さんと合流。赤塚駐車スペースに2台駐車し林の中を進む。明るくなったのでヘッ電は不要。ニッ塚南に出て西に進む。小天狗塚から沢を詰めて宝永第3火口を目指す。登るに連れて徐々に雪が出始める。明け方は快晴だった空が芳しく推移しない。この頃から早くもガスが出始める。

9:15第1火口と第2火口のコルに到達する。ここで小休憩し、スパッツ・アイゼンを装着する。宝永第1火口南端の雪を拾いながら2352m峰着。

新六合からの道と合し、第1火口の中に入っていく。雪は徐々に軽いクラスト状態になってきた。後藤リーダーから「アイゼンを引っかけないように注意!」との指示が飛ぶ。

十二薬師の下を通過して宝永山への登りに掛かるとようやく東の空の雲が切れ、濃い青色の空が広がった。山頂も時々見え出した。十二薬師は、なるほど見ようによっては林立する仏像にも見える。

宝永山の肩に出る手前あたりで風が強くなり、耐風姿勢を取ることが数回あった。身体を持って行かれるような強烈な風ではないが注意が必要だ。

宝永山の肩に11:30着。腹の空き加減もほど良くなった。宝永山のピークには行かずにそのまま少し登り、御殿場口のブルドーザ道にトラバースする。少し下って風のない所で昼食となった。



既に日は過ぎてしまったが村山さんの誕生日祝いにシャンパンを開ける。安いスパークリングワインだがこういう場所で飲むと妙に旨い。

昼食後、身体が冷えない内に下山開始。ルートは広大な雪面を右手方向にトラバース気味に取る。傾斜はさほどでもないが表面が少しくラストしているのでここも注意が必要だ。

雪は次第にまばらとなり、やがて砂走りのような斜面となった。傾斜が緩くなった辺りで休憩し、アイゼンをはずした。この時、後藤リーダーから「磁石も時計も使わずに自然現象だけで北を知る方法は？」とのクイズが出た。結局誰も分からず回答を聞くと「斜面に点在している雪が北を向いて尖っている」とのこと。言われて辺りを見回すと正にその通りだった。



これはおそらく太陽の南中高度に関係するのであろう。例えばこのあたりは北緯35度付近なので冬至の南中高度は約32度である。つまり東から出た太陽は、日中高くなっても地上からせいぜい30数度の高さでしかない。それが徐々に高度を下げながら西に沈むのである。したがって北側に近いほど太陽からの光が斜めに当たり、雪が溶けにくい。このため北側が尖った涙滴型に変形していくのだろう。聞いて始めて知るまさに「コロンブスの卵」のような話であった。

その他の記述（L後藤）

1. 久しぶりに庄野さんが東京から駆けつける。相変わらずお元気だ。
2. 途中で隊が分かれる可能性があったので、ニッ塚南地面に下降路を矢印で示した。
3. 宝永火口上りの雪は、部分的に硬かったが、全体的に問題はなかった。
4. 宝永山稜線で、I君が新品の毛帽子とサングラスを飛ばされた。
5. 宝永山稜線から下降はスキーなら直に滑るが、初級者もいるので、安全を期し簡易ハーネスでロープを結んだ。結果的にこれは正解だった。翌日の報道で、御殿場口で滑落死亡事故があったという。
6. 昼食が遅く、とにかく腹が減った。
7. Mさんの誕生日祝いでSさんが上げてくれた、ワインは美味しかった。Kさんの熱燗もサイコーでした。今後、この手で行こう！！（笑）
8. 昼食後、Sさんが早々アイゼンを外した。しかし、宝永山中腹のトラバースはカチカチで再び装着。前述の事故を考えれば甘い。仮にこれで事故があった場合、Lは責任を取ることは出来ない。また、雪がなくなっても、地面は凍土状態でアイゼンが無ければ、とても下れない。
9. 残雪北向き現象は、初めて観察した。また、宝永山稜線で、「構造土」に似たものも見た。富士山なら当然考えられる。
10. 悪天候で滑落停止・耐風姿勢などの、雪上訓練が出来ずに残念だった。
11. 簡易ハーネスが有効なので今後、セルフレスキュー装備として、120cmスリングと6mm×10mロープを各自常に携行すること。スリングはピッケルバンドと併用し、連結はカラビナを使用する。
12. Kさんは前回の夏、2352m峰下までしか上れなかったが、トレーニングの成果もあり見事リベンジした。いや、今回はそれ以上だろう。ご苦労様でした。今後はこれを糧として更にレベルアップしよう。また、女性軍もよく頑張りました。

以上



関連HP

裾野麗峰山の会

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/

長泉さわやかハイキング

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/

長泉ウォーキングクラブ

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/kiroku-7.html

長泉八十八巡礼会

<http://nagaizumi88jyunrei.web.fc2.com/index.html>

長泉富士山の会

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/kiroku-6.html